

平成 28 年度 特定非営利活動法人あわじ寺子屋 事業報告

1. 居場所事業

- ①「だれでも いつでも ようこそ」が合言葉どおり、多数の、多様な子どもたちが参加した。年間来場者数 4501 名 252 館開設、1 日平均約 20 名。
- ② 6 月 7 日 崇禅寺慰霊祭の実施。参加生徒 12 名+スタッフ+大賀正行
- ③ 7 月 18 日海の日、大阪バドミントンクラブとの共催。36 名+西淀川教育センター12 名の参加。
- ④ 11 月 2 日 (水) 焼き芋パーティ 38 名+20 数名の関係者、パナソニックエンジニアリング共栄株式会社の従業員 7 名参加。
- ⑤ 12 月 22 日 (金) 冬のお楽しみ会 37 名+20 数名。関大レオクラブが企画。
- ⑥ 1 月 30 日 (月)「なぞかけで遊ぼう」地域落語家の桂和歌ぼんさんが実施。
- ⑦ 3 月 24 日 (金) 卒業と進級を祝う会 31 名+20 数名。中 2 と関大レオクラブが実行委員会を作る。
- ⑧ イベント以外、子ども達は様々なことに取り組んでいます。折紙やコマ回し、工作です。

2. 学習支援事業

毎日実施。小学生は、「宿題をやりきる」中・高校生は、「分からないところから学習する」。中 3 生は全員、高校進学。高校生は定期考査前と考査中来場し、午後 3 時から開設。特に、火曜日と木曜日は大学生と退職教職員の学習支援ボランティアさんが来てくれている。

3. 野菜作りなど体験学習と子どもの企画応援事業

- ①旧学習園で野菜を作り、土起こし、水やりと草ぬきをしている。収穫祭を実施。
- ②子どもの発案で熊本地震支援の募金活動を 2 回し、3 万 5000 円余りを集めた。
障がい者の震災支援をしている「ゆめ風基金」に託した。

4. 子どもや保護者への教育・生活相談事業

- ①毎日、実施。「なんでも だれでも 気軽に」が合言葉。DV や虐待の連鎖を止める相談事業と生活支援をノーマライゼーション協会と連携して実施した。

5. 淡路本町商店街振興組合と連携した「子ども食堂」事業

活動場所は、ガスも切られ、水道水もそのまま飲めない状況ですが、企業の助成金と淡路本町商店街振興組合のご厚意で、長期休み中に「子ども食堂」を開設することができた。夏休みに 10 回、冬休み 4 回、春休み 6 回、商店街の 4 店のご協力で実施した。

6. 以上の事業を実施するために、学校、PTA、地域活動協議会や社会福祉協議会、教育団体、行政と連携をした。地域と協働するために「あわじ寺子屋・応援団」の組織があり、昨年度は 5 回開催した。他に、民間サイドで、子ども支援を東淀川区に広げるために、あわじプラッツ、道の空、路交館と月一回情報交流会を開催した。